

# Mr. Bassman (ベースマン列伝) Vol.42

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変……。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥くとももの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

## Pierre Michelot【ピエール・ミシェロ】



Photo from "Jazz Makers" / Pierre Michelot (Mercury)

### Profile

1928年3月3日、フランス・セヌ＝サン＝ドニ県、サン＝ドニ生まれ。幼少期にピアノを学び、16歳の時にクラシック音楽でコントラバスを学び始める。その後、ジミー・ブラントンやオスカー・ペティフォード等、モダン・ジャズ・ベースのパイオニア達に影響を受け、ジャズに興味を惹かれる。20歳の頃までにパリで頭角を現し、48年にレックス・スチュアートの作品で初レコーディングを果たす。49年コールマン・ホーキンスと共演する他、ズート・シムズ、レスター・ヤング、デジー・ガレスビー、バド・パウエル、デクスター・ゴードン等、アメリカの著名ジャズマン達とも共演。53年にジャンゴ・ラインハルトの最後のレコーディング・セッションに参加。57年マイルス・デイヴィスとの共演で名を馳せ、マイルスの名盤『死刑台のエレベーター』は代表作のひとつとなる。60～62年バド・パウエルのトリオに参加。63年ジャック・ルーシエ・トリオで活動し、“プレイ・バッハ”シリーズは好評を得る。その後、フリーランスとして、ベーシスト、アレンジヤーとして活動。85年に映画『ラウンド・ミッドナイト』に出演。90年にクリスチャン・エスクードのバンドに参加。その後も精力的に活動を続けたが、晩年はアルツハイマー型認知症に苦しんだ。2005年7月3日フランス・パリで死去。享年77歳。

## フランスを代表するジャズ・ベースマンのひとり

ピエール・ミシェロは自身のリーダー・アルバムも発表しており、1950～60年代を中心にフランスでファースト・コール・ベースマンとして活躍した。ド派手なプレイやソロで注目を引くタイプではないが、その太くて重いビートは内に秘めたベースマン魂を感じさせ、髪をオールバックにしてクールにウォーキングする姿は玄人好みで、いぶし銀の存在感を放っていた。中でも有名なのはマイルス・デイヴィスが音楽を担当したルイ・マル監督のフランス映画『刑台のエレベーター』のサントラ盤での存在感あるベース・プレイだろう。そして、1986年に公開されたアメリカ・フランス合作映画で、デクスター・ゴードンが主演した『ラウンド・ミッドナイト』への出演と同映画のサントラ盤への参加でも知られている。映画『ラウンド・ミッドナイト』では、パリの“ブルーノート”での演奏シーンでその雄姿を拝むことが出来る。

### PM's Great Albums

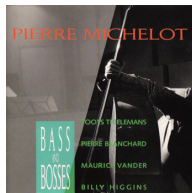
バド・パウエルとのパリでの共演を取めたデクスター・ゴードンの『アウ・マン・イン・パリ』やそのデクスター主演映画『ラウンド・ミッドナイト』のサントラ盤等もお薦めです。



#### ラウンド・アバウト・ア・ベース ピエール・ミシェロ

(Mercury : 832309-4 [Import LP])

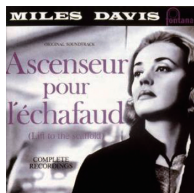
ピエールのリーダー作品。モーリス・ヴァンデルやミシェル・ポルタル等が参加。仏バップ・ジャズの神髄が聴ける。全9曲収録。1962年録音。



#### ベース・アンド・ボシズ ピエール・ミシェロ

(EmArcy : 842 531-2 [Import CD])

1989年録音のピエールのリーダー作品。トウーツ・シールマンズやビリー・ヒギンズ等が参加。ピエールのオリジナル2曲を含む全7曲収録。



#### 死刑台のエレベーター マイルス・デイヴィス

(ユニバーサルミュージック : UCCU-99012)

マイルス・デイヴィスが音楽を担当したルイ・マル監督の同名タイトルの仏映画のサントラ盤。ピエールのベース・プレイも光っている。1957年録音。



#### ジャズ・アット・ザ・ブルーノート モーリス・ヴァンデル

(ユニバーサルミュージック : UCCU-9778)

1961年に仏を代表するピアニスト、モーリス・ヴァンデルがケニー・クラークとピエールとのトリオで出演したパリのブルーノートでのライブを収録。